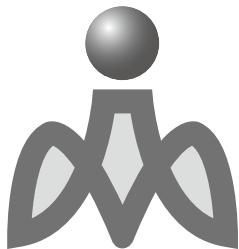


山 梨 県  
商工会地区

# 中小企業景況調査報告書

〔 平成18年10月～12月実績 〕  
〔 平成19年 1月～3月予測 〕



未来に敏感、人が中心

山梨県商工会連合会



# 目 次

I 調査要領 .....	1
II 景況	
1. 産業全体の景況概観 .....	2
2. 製造業の動向	
(1) 景況概観 .....	3
(2) 主な項目でみる業況 .....	3
3. 建設業の動向	
(1) 景況概観 .....	6
(2) 主な項目でみる業況 .....	6
4. 小売業の動向	
(1) 景況概観 .....	9
(2) 主な項目でみる業況 .....	9
5. サービス業の動向	
(1) 景況概観 .....	12
(2) 主な項目でみる業況 .....	12



## 【I】調査要領

### 1. 調査対象

- (1) 対象地区 11商工会  
(2) 対象企業数 165企業  
(3) 回答企業数 165企業

### 2. 調査対象期間

第3四半期 平成18年10月～12月期  
調査時点 平成18年12月5日

### 3. 調査方法

県下の調査対象企業を11商工会の経営指導員が訪問面接調査

### 4. 調査対象企業（モニター企業）の商工会別、業種内訳

商工会名	製造業	建設業	小売業	サービス業	計
都留市	3	3	5	4	15
南アルプス市	4	2	6	3	15
北杜市	4	2	5	4	15
甲斐市	3	3	4	5	15
笛吹市	3	3	4	5	15
上野原市	3	3	4	5	15
甲州市	4	2	6	3	15
鰍沢町	4	2	6	3	15
身延町	4	2	6	3	15
中央市	4	2	6	3	15
河口湖	4	2	6	3	15
計	40	26	58	41	165

### 5. その他

本報告書のD I 値とは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について前年同期と比較して、増加（上昇、好転、長期化等）とする企業割合と、逆に減少（低下、悪化、短期化等）とする企業割合の差を示すものである。

## 【II】 景況

### 1. 産業全体の景況概観

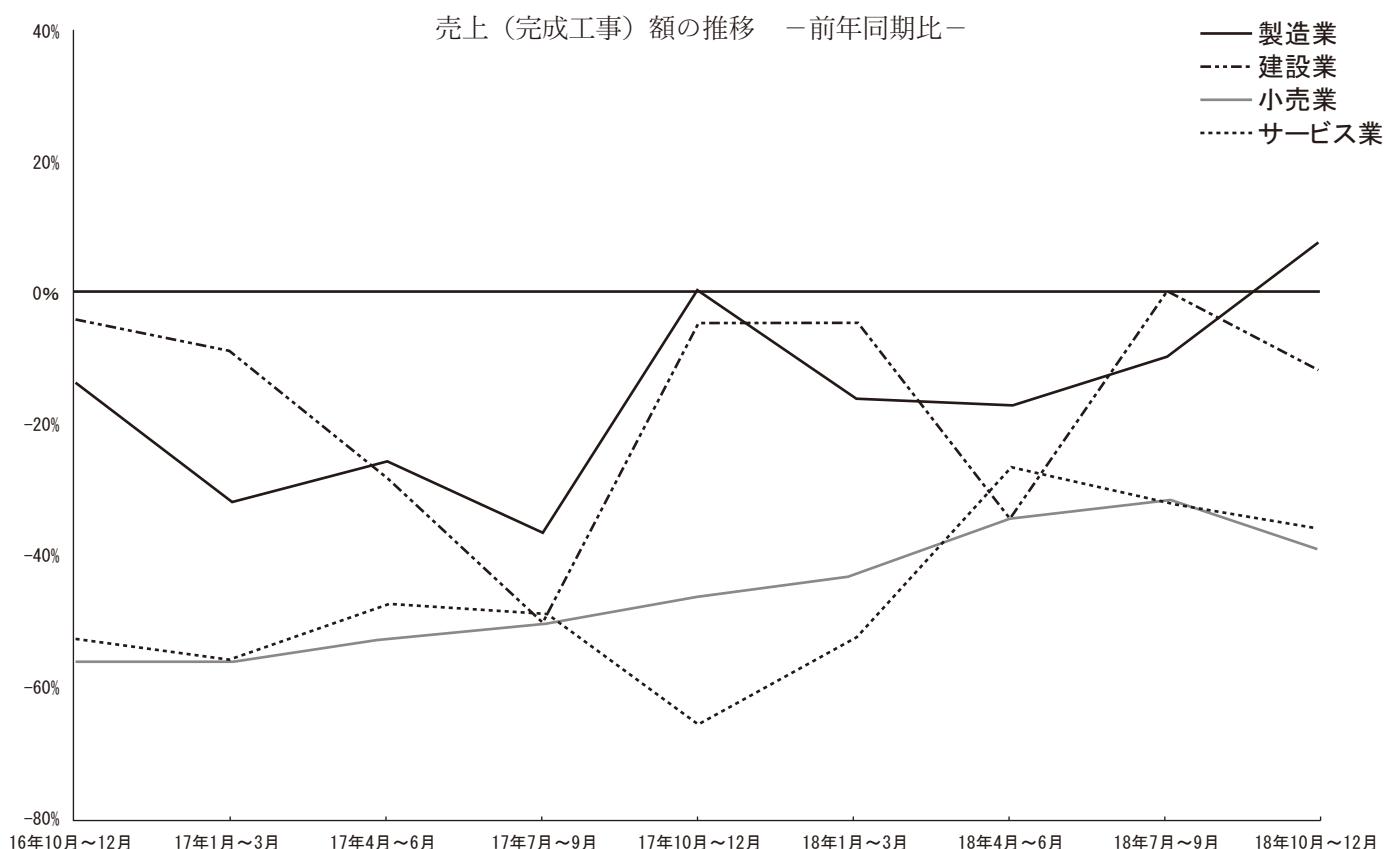
本県の「製造業」「建設業」「小売業」「サービス業」4業種の過去2年間の売上額(完成工事高)の推移は下図のとおりである。前四半期に比べ、4業種のうち唯一製造業がプラスに転じD I 7.5であったことが目を引く。その他3業種については、建設業が前期にはD I 0だったのが、今期はマイナス11.6に落ち込んだ。小売業D Iは、この2年間上昇傾向にあったが、今期はマイナス36.2に下落した。サービス業D Iは、前々期より下降線を辿って小売業とほぼ等しくマイナス38.9であった。

また、前年同期と比較しての来期の売上(完成工事高)の見通しD Iについては、製造業が0、建設業は極めて悲観的でマイナス42.4、小売業も今期より悪くマイナス41.4、サービス業はいくらかの改善を見せるがマイナス36.6であった。

採算D Iは、製造業は前期とほぼ横ばいのマイナス7.7であった。売上D Iがプラス17.5に上昇したのに比べ、採算が回復しないのは受注単価の厳しさやコスト押し上げ要因があるものと考えられる。建設業の採算D Iは、前期より3.8ポイント悪化しマイナス38.5であった。小売業とサービス業については、前期より大幅な落ち込みを見せ、それぞれ19.1、17.5ポイント低下しマイナス56、マイナス52.5であった。

採算についても来期見通しD Iを見てみると、製造業は今期より約3ポイント悪化のマイナス10.6、建設業は7.7ポイント悪化のマイナス46.2、小売業は9.2ポイント改善してマイナス43.8、サービス業も8.9ポイント改善し43.6であった。

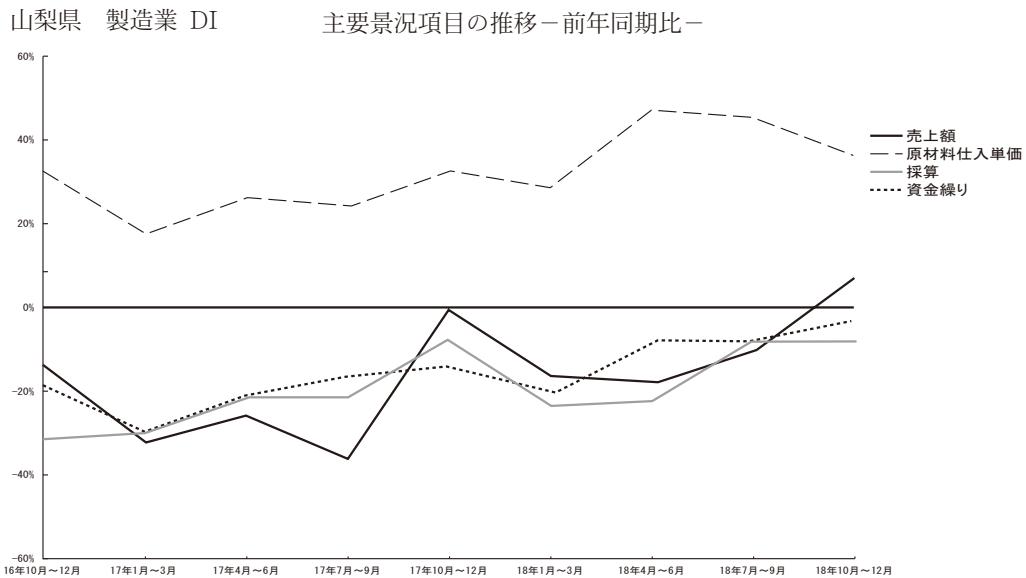
山梨県 全産業 DI



## 2. 製造業の動向

### 1. 景況概観

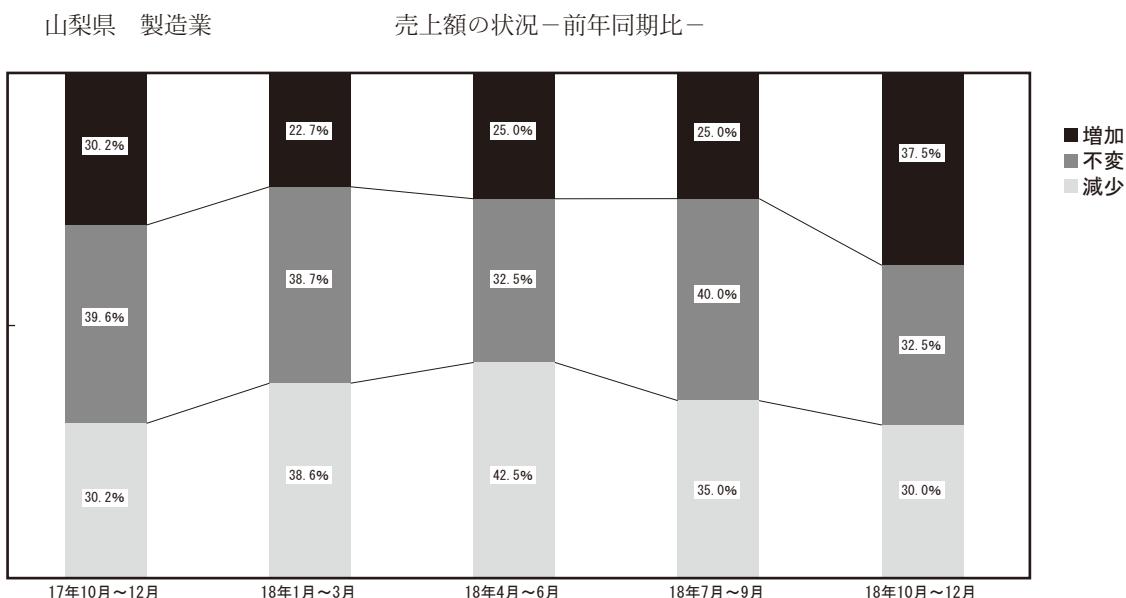
下図は、製造業の過去2年間の「売上額」「原材料仕入単価」「採算」「資金繰り」の推移状況を表わしたものである。「売上額」および「採算」については、すでに述べたとおりである。「原材料仕入単価」は高止まりを続けていたが9.1ポイント下がり、36.4であった。これが採算には、そんなに影響をもたらしていないのではないかという結果である。資金繰りについては、5ポイント改善しマイナス2.7であった。



### 2. 主な項目で見る業況

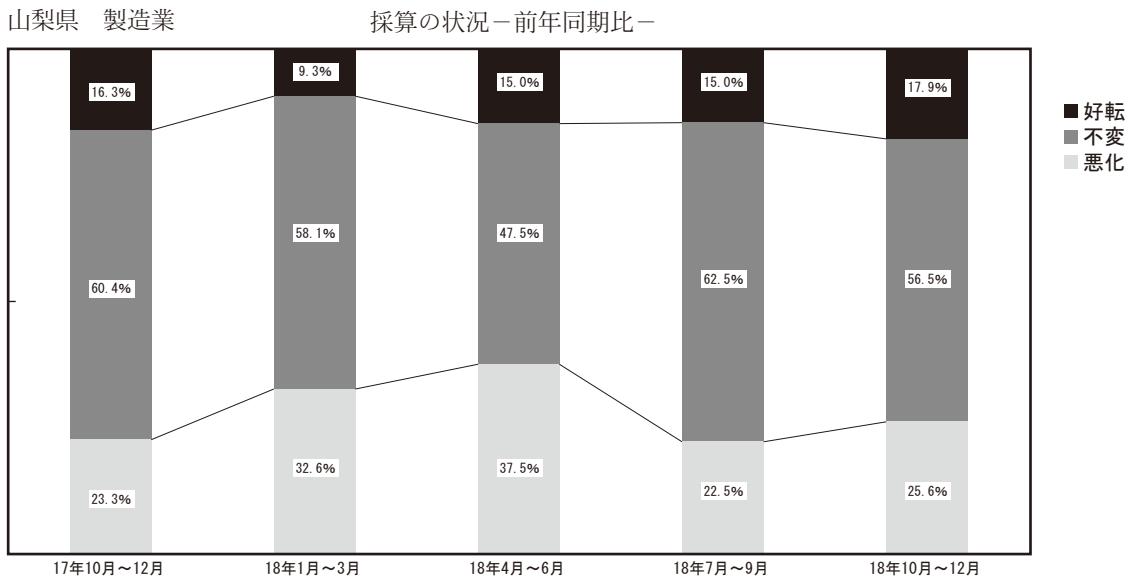
#### (1) 売上額

下図は、当期を除いた過去1年間の「売上額」の前年同期比で見た増減状況の前推移を示したものである。前期と比べると「増加」がプラス12.5ポイント、「減少」がマイナス5ポイントで、D Iが7.5となった。



## (2) 採 算

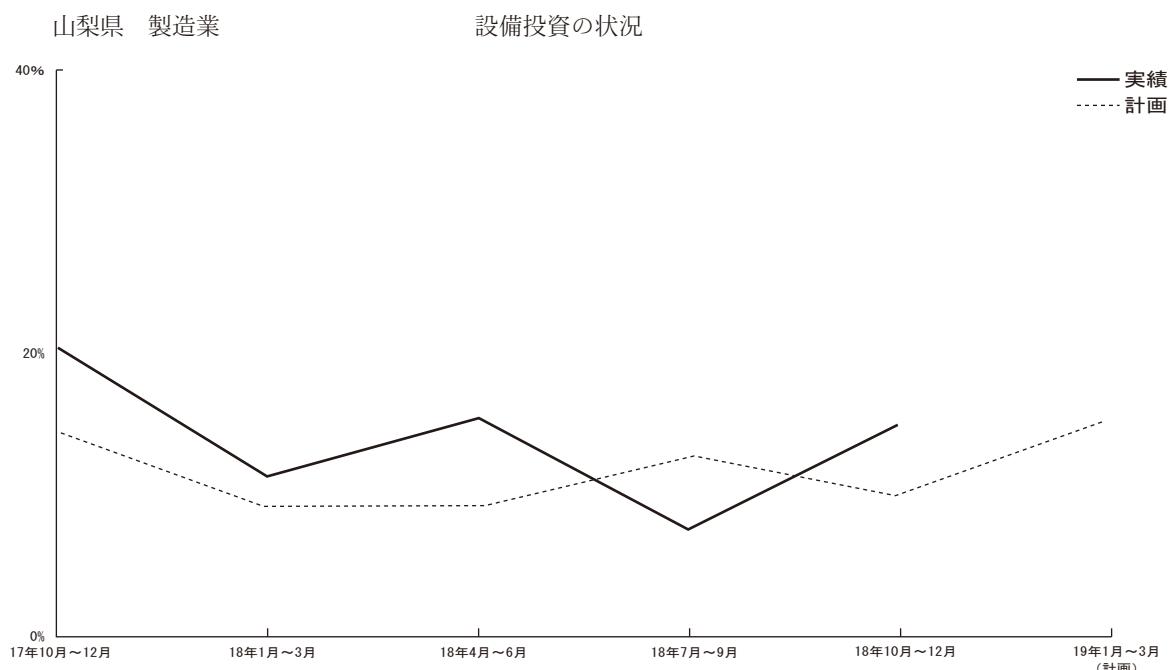
「採算」についての詳細は、下図のとおりである。前期と比べると「好転」が2.9ポイント増加して17.9%、一方「悪化」もほぼ同じ3.1ポイントの増加の25.6%で、D Iはマイナス7.7になる。前期と比べ「好転」および「悪化」が両者とも同じくらい増加しているということは、業種間ならびに企業間格差が表れていると言うことなのだろう。産業の構造改革に晒されている今日、個別企業の経営革新等への取り組みや努力が問われていると考えたい。



## (3) 設備投資

下図の過去1年間あまりの設備投資の状況を見ると、20%以下の山と谷を繰り返してきており、当期は前期と比べると倍の伸びを記録して15%である。その内訳である実施企業6社を見ると、「工場建物」が2件、「生産設備」3件、「車両・運搬具」および「OA機器」が1件ずつである。そして、今期は計画より実績が上回った。

来期の計画を見ると、今期と同じ実施企業数で、その内訳は「工場建物」2件、「生産設備」4件、「車両・運搬具」1件、「OA機器」2件という結果である。



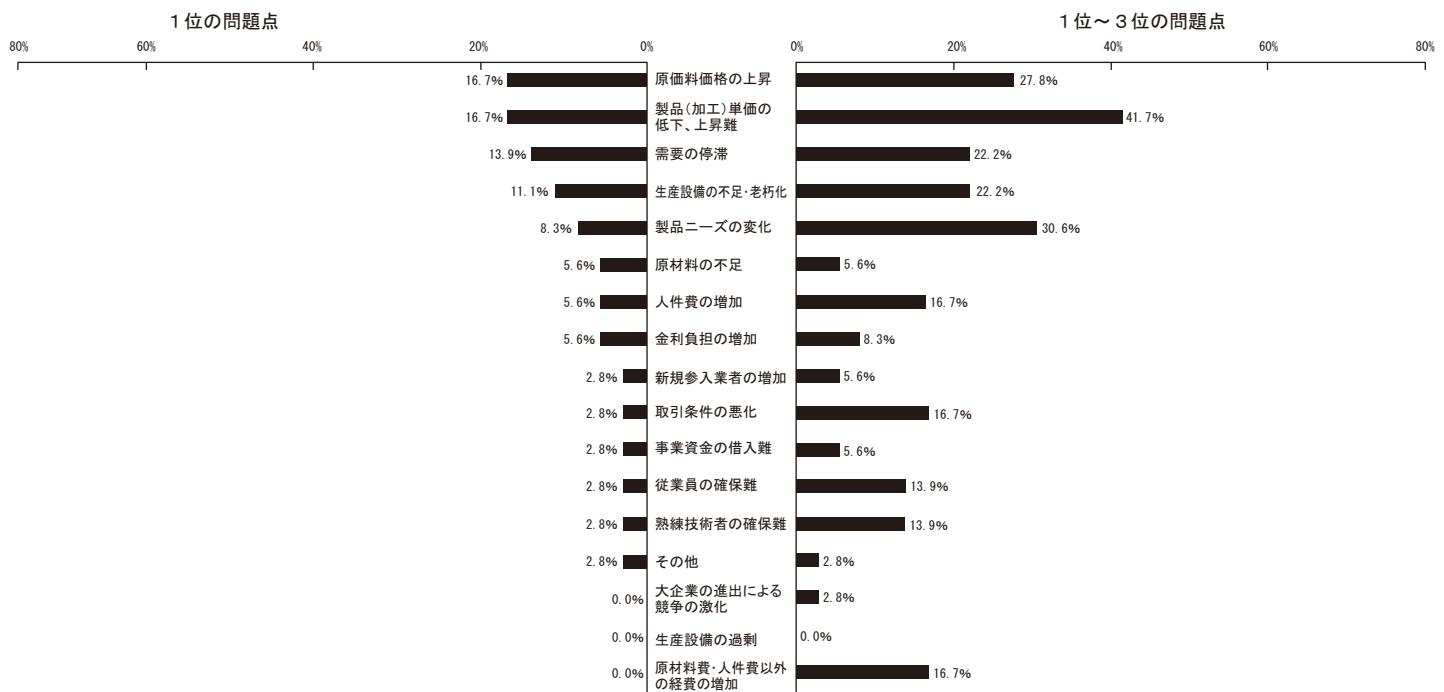
#### (4) 経営上の問題点

製造業における経営上の問題点は、下図のとおりである。「一位」に挙げたものは、「原材料価格の上昇」と「製品(加工)単価の低下、上昇難」が6件ずつの16.7%であった。前回と比べると、「原材料価格の上昇」は8.3%より増加し、「製品(加工)単価の低下、上昇難」は25%より減少した。続いて「需要の停滞」5件の13.9%、「生産設備の不足・老朽化」4件の11.1%となっている。「需要の停滞」は前期と比べると下がり、「生産設備の不足・老朽化」は変化なしであった。

次に「一位～三位」に挙げたものを見ると、最も多かったのは「製品(加工)単価の低下、上昇難」で15件の41.7%であった。続いて「製品ニーズの変化」が11件の30.6%、「原材料価格の上昇」10件の27.8%、「生産設備の不足・老朽化」と「需要の停滞」が8件ずつの22.2%という結果であった。

前期と違う特徴は「製品ニーズの変化」に対する問題意識が多くなってきてている。これは景気の回復局面が続く中、経営者の意識が内向き志向から市場や顧客等外向きに、移り出している表れと言えるのではないだろうか。

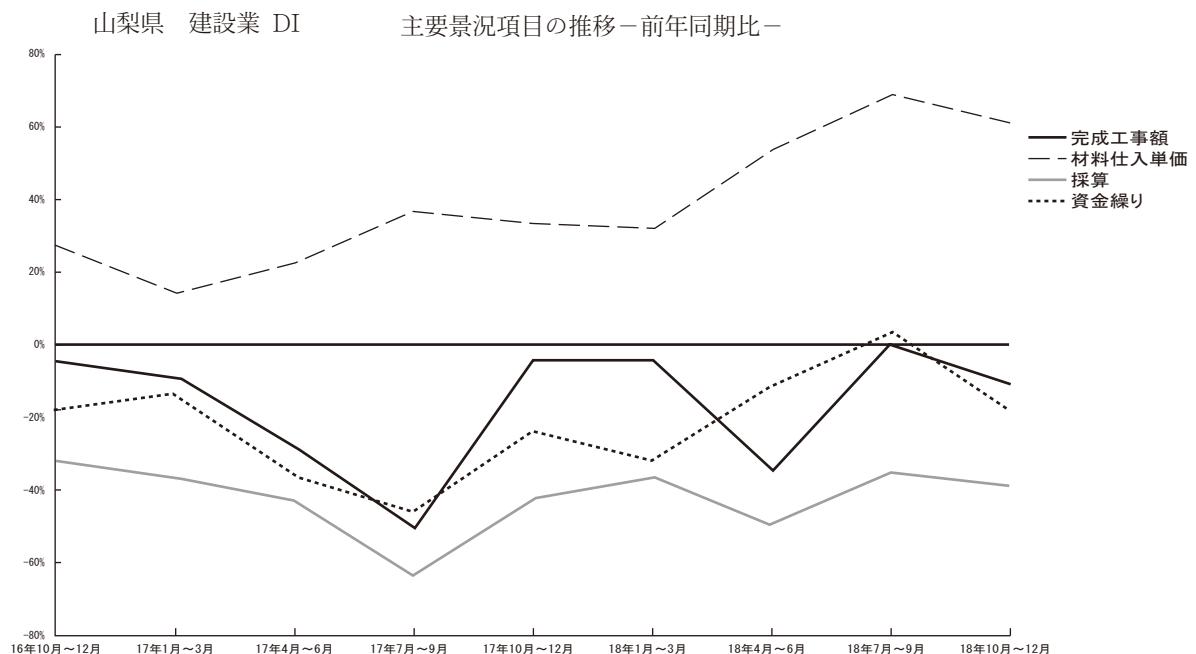
山梨県 製造業 経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



### 3. 建設業の動向

#### 1. 景況概観

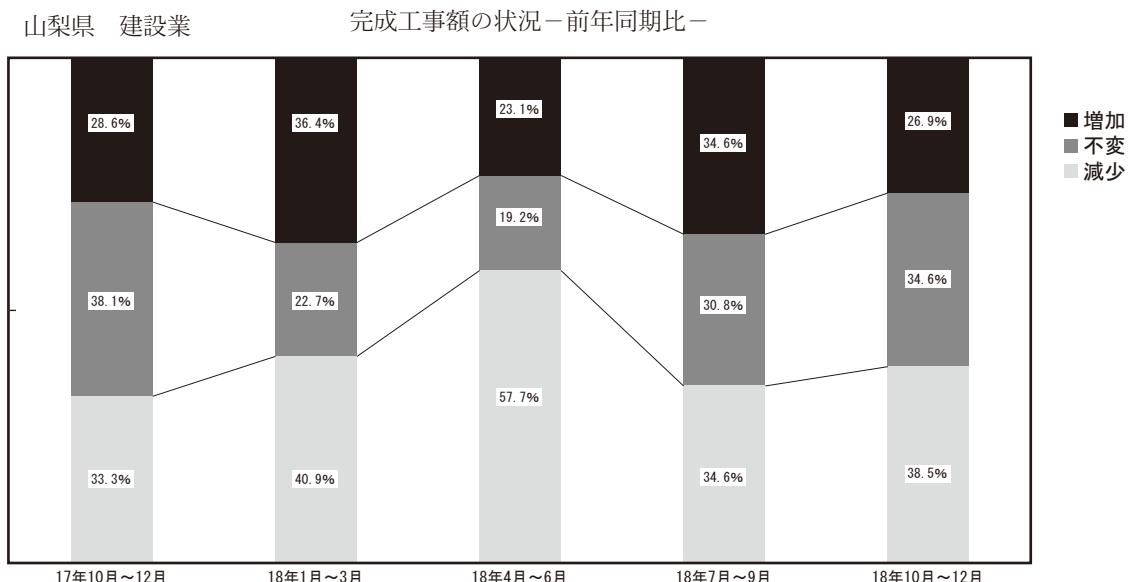
「完成工事高」および「採算」についての前期比は、産業全体の景況概観で述べたので、「材料仕入単価」と「資金繰り」を見ていきたい。「材料仕入単価」は、7.6ポイント下がり D I 61.6であったが、高止まりといった状況である。「資金繰り」 D I は、前期3.9に改善したのが、今期は23.1ポイント悪化してマイナス19.2であった。



#### 2. 主な項目で見る業況

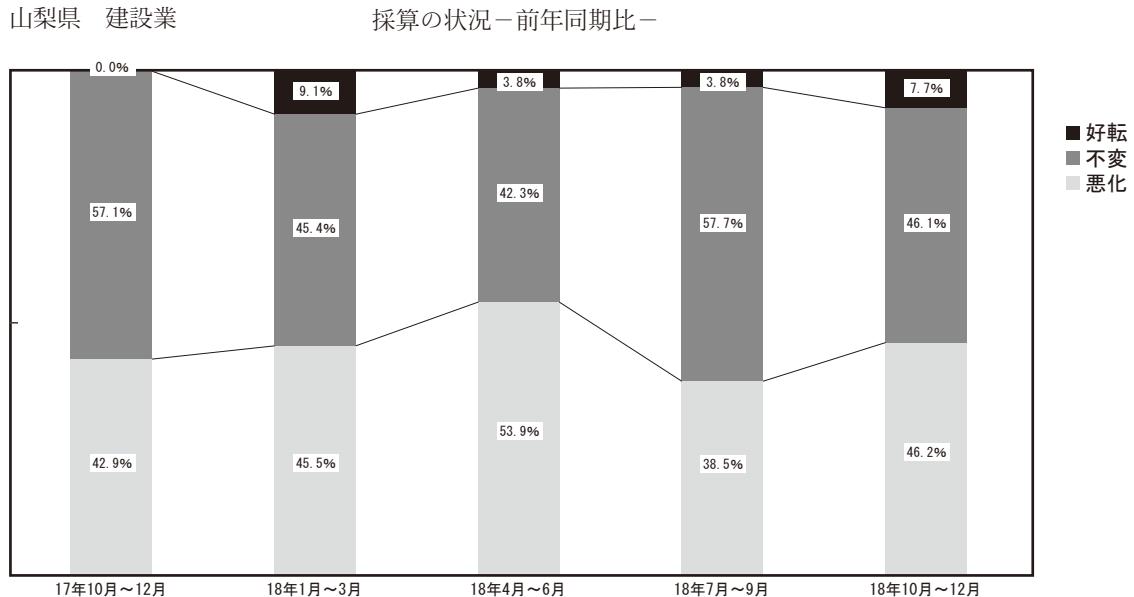
##### (1) 完成工事額

過去1年余の「完成工事高」の状況の推移を表わしたもののが下図である。「増加」と答えた企業が、前期より7.7ポイント減り7社で26.9%であった。「減少」と答えた企業は、3.9ポイント増え10社38.5%という結果であった。よって、D I はマイナス11.6である。



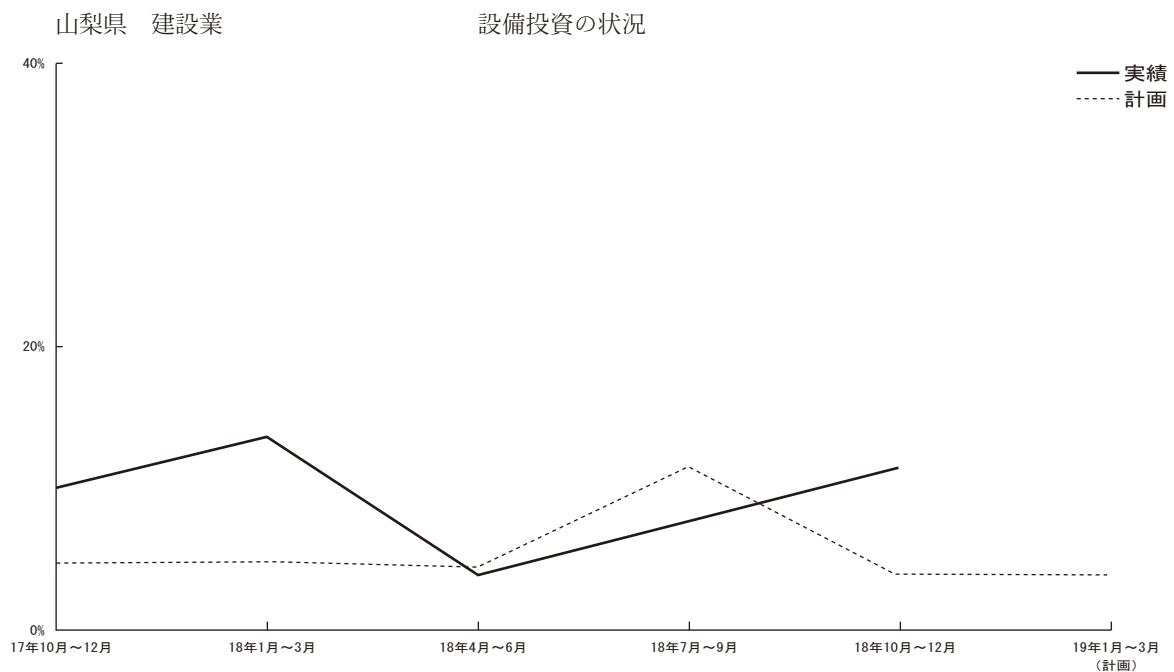
## (2) 採 算

採算状況の詳細を見ると下図のようになる。「好転」が前期より倍に増え2社の7.7%、「悪化」も7.7ポイント増加して12社の46.2%であった。「悪化」は「不变」と同じ割合である。D Iは、38.5という結果になる。



## (3) 設備投資

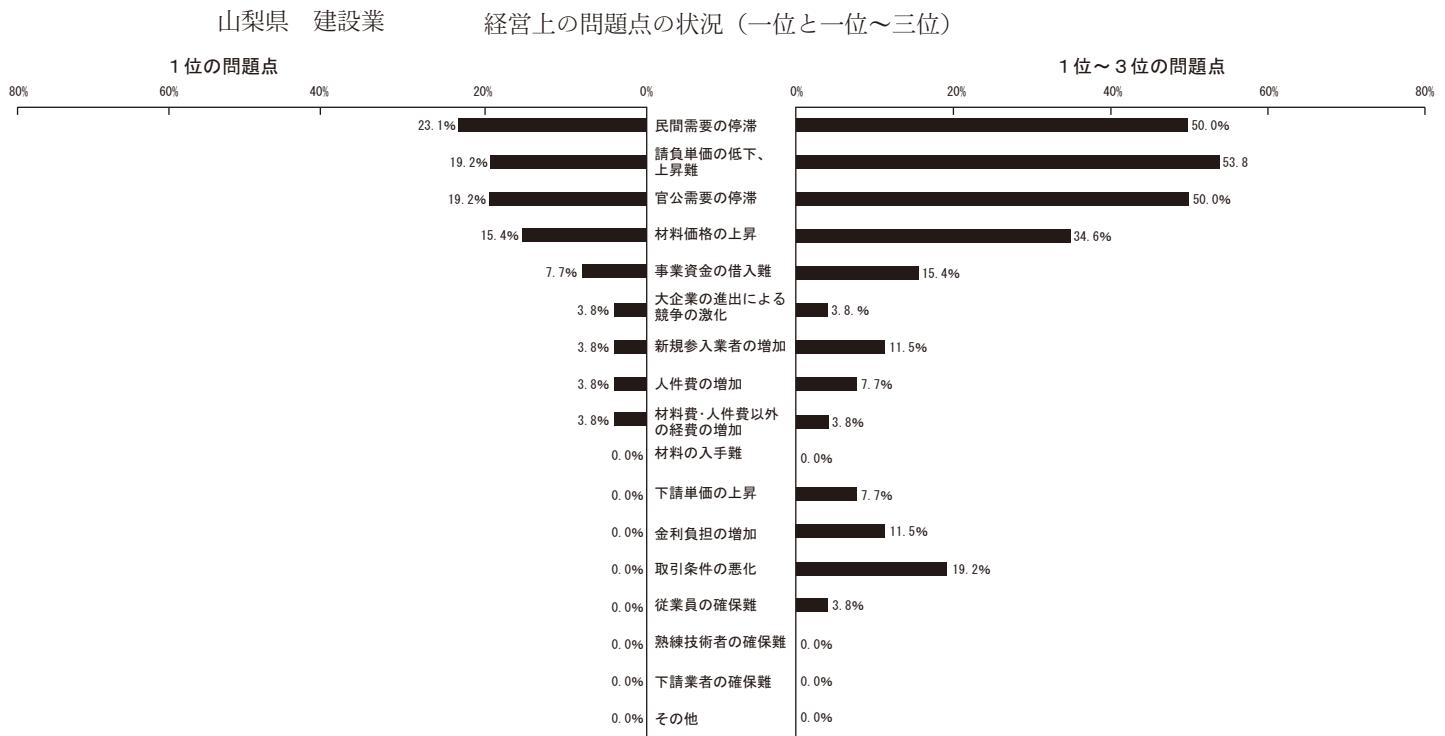
建設業における設備投資状況は下図のとおりである。図においては、前々期より2期続けて右肩上がりの直線で上昇してきている。だが、調査企業は26社であるので、回答企業のうち設備投資の実績は、前々期1社3.8%、前期2社7.7%、当期3社で11.5%ということである。来期の計画については1社が計画をしている。当期の設備投資の内訳を見ると「建物」「建設機械」「車両・運搬具」が1件ずつで、他の3産業と比べると投資意欲は低い。



#### (4) 経営上の問題点

まずは「一位」に挙げたものから見ていくと、「民間需要の停滞」が6社で23.1%と最も多く、続いて「請負単価の低下、上昇難」と「官公需の停滞」が5社ずつの19.2%、さらに「材料価格の上昇」が4社で15.4%が目を引く。

次に「一位～三位」については、「請負単価の低下、上昇難」を挙げた企業が一番多く、14社で過半数に達した。続いて「官公需の停滞」と「民間需要の停滞」が13社ずつで半数であった。そして、「材料価格の上昇」が9社で34.6%であった。前期調査結果とあまり変化はなかった。

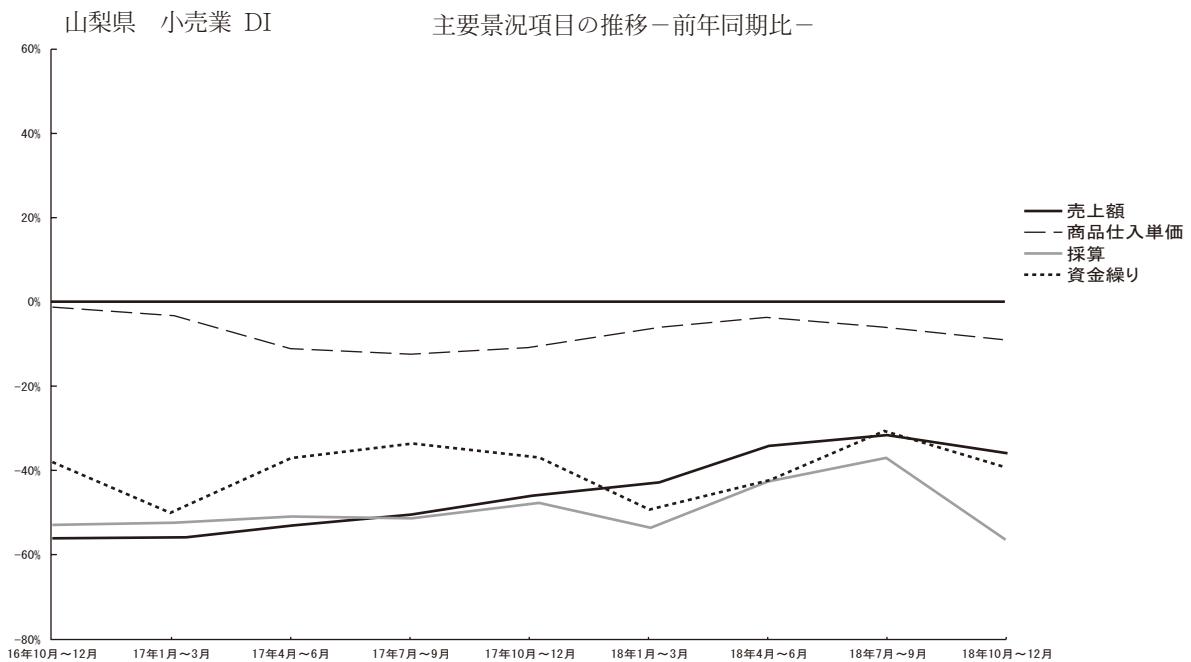


## 4. 小売業の動向

### 1. 景況概観

「売上額」と「採算」については、これまでに見てきたとおりであるので、「商品仕入単価」と「資金繰り」についての解説をしたい。「商品仕入単価」DIは、前期より4.7ポイント下がりマイナス8.7である。流通業における価格競争が相変わらず激しく、デフレの状況を抜け出せないでいる証であろうか。

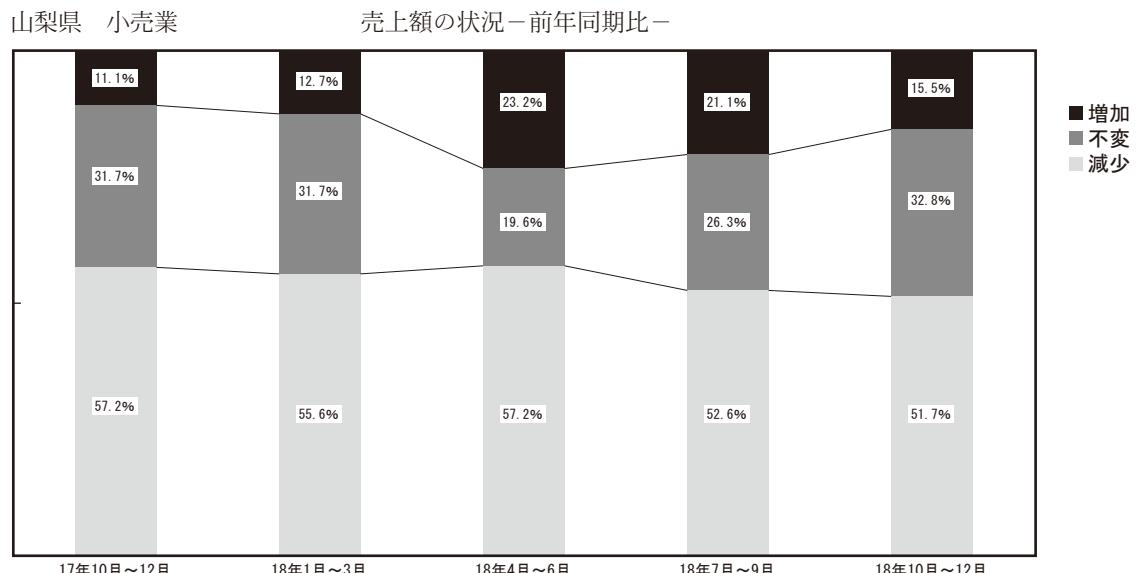
次に、「資金繰り」を見ると前期と比べ8.3ポイント悪化し、DIマイナス38.6であった。当項目の内訳をみると、「好転」したとの回答はゼロで、「不变」が35社、「悪化」が22社ということである。



### 2. 主な項目で見る業況

#### (1) 売上額

前年同期と比較して「増加」と答えた割合は、前期に比べ5.6ポイント減り15.5%であった。「減少」は前期より0.9ポイント低下し51.7%で、DIはマイナス36.2である。前記した製造業や建設業に比べ芳しくないのは、大型店の攻勢やこれと関係する消費者の購買行動の変化という構造的な問題を克服できない状況を示しているのではないかと思われる。

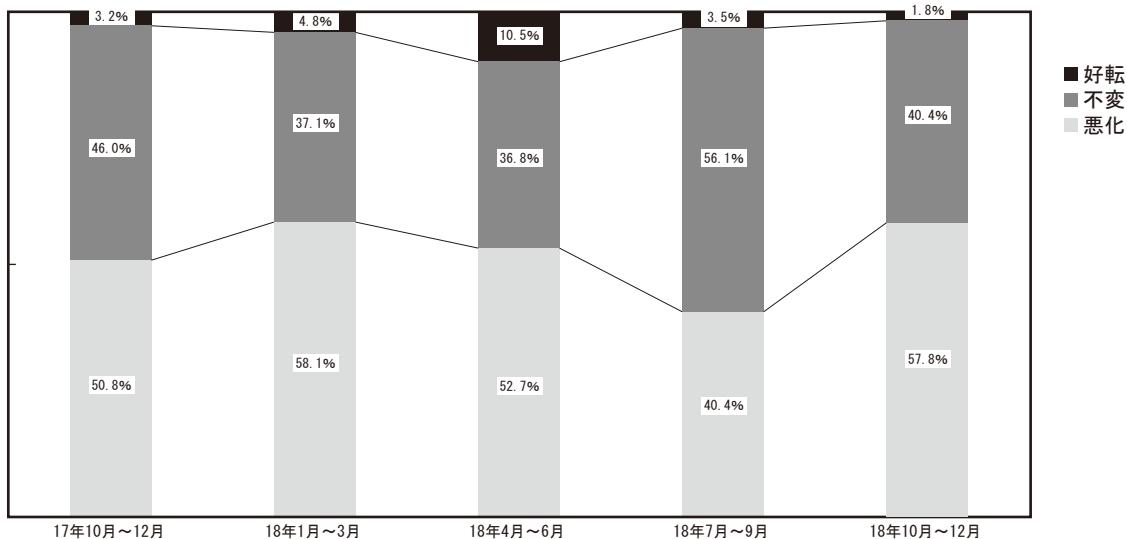


## (2) 採 算

「採算」の状況は「好転」が過去1年余のうち最低の1.8%であった。「悪化」は過去同期間2番目に悪い57.8%であった。よって、採算DIは過去同期間最悪のマイナス56という結果である。中小小売業にとって冬の時代が続く中、ますます厳しさが増していることが窺い知れる。

山梨県 小売業

採算の状況－前年同期比－



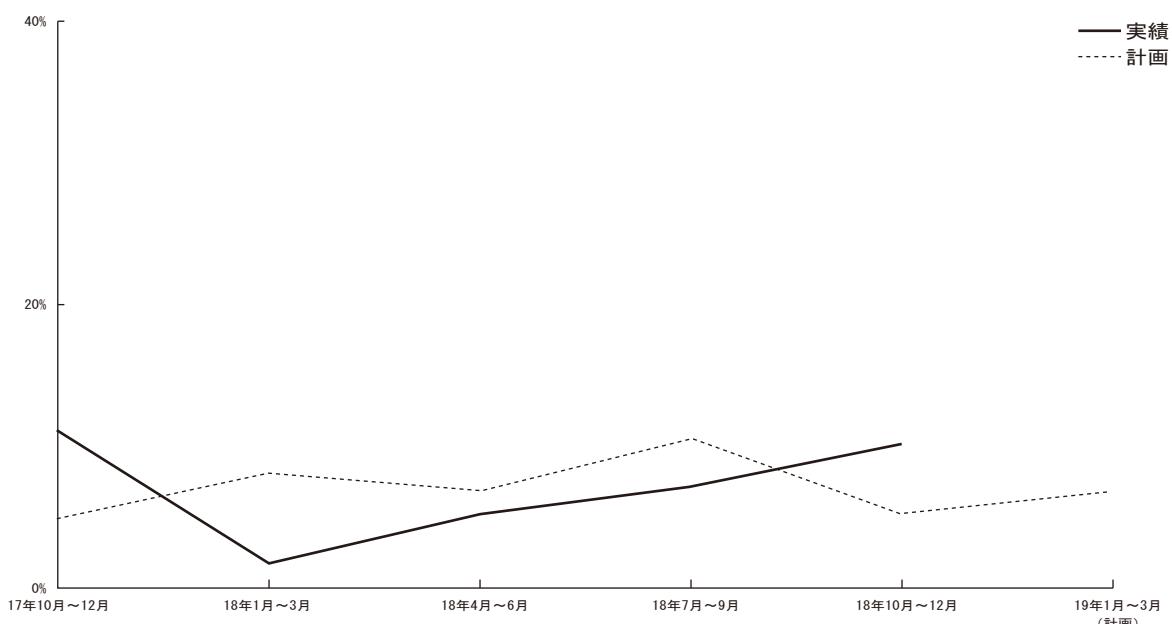
## (3) 設備投資

小売業の設備投資の状況は、下図のとおりである。前期と比べ、2社増え6社が実施し10.3%であった。その内訳は「販売設備」3件、「店舗」「車両・運搬具」「OA機器」がそれぞれ2件ずつ、「付帯施設」および「その他」1件ずつであった。

来期に計画をしている企業は4社で、その内訳は「販売設備」と「OA機器」が2件ずつ、「店舗」「車両・運搬具」「その他」が1件ずつという結果である。

山梨県 小売業 DI

設備投資の状況



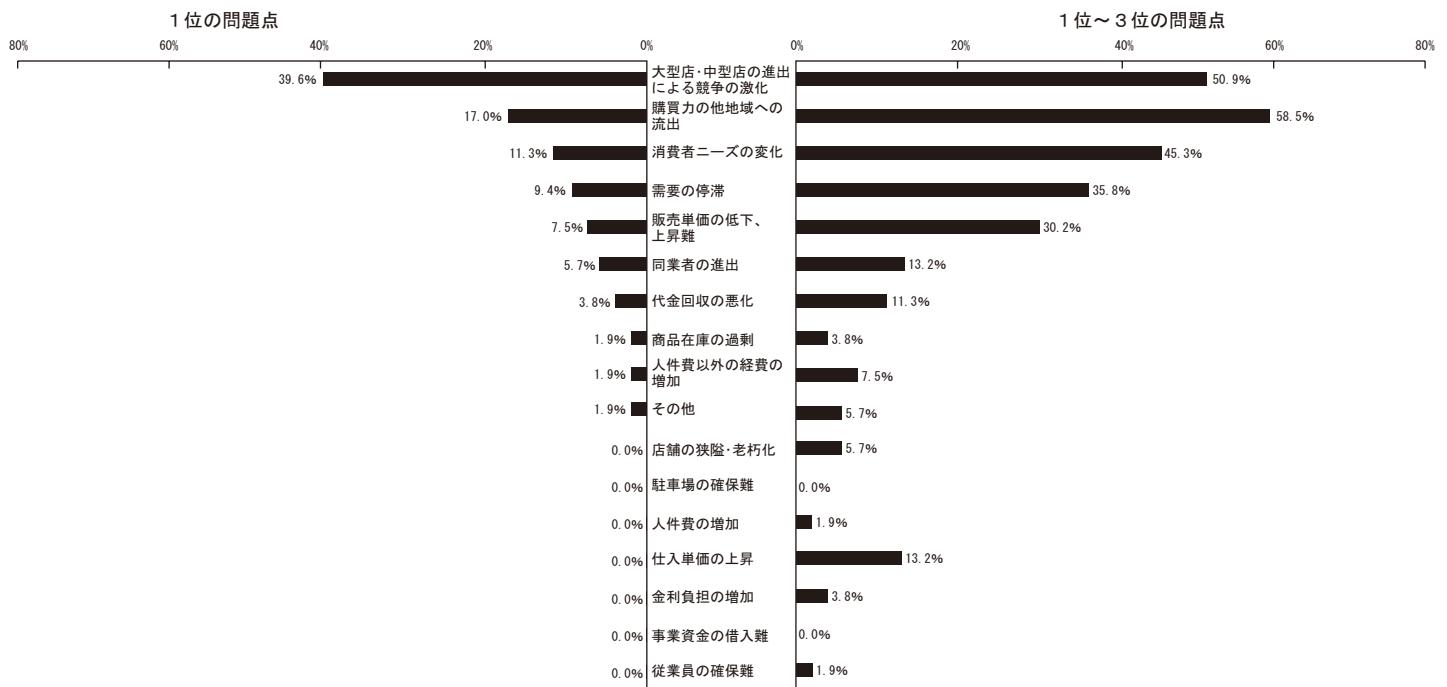
#### (4) 経営上の問題点

まず「一位」に挙げられたものから見ていくと、「大型店・中型店の進出による競争の激化」が最も多く21社で39.6%であった。続いて「購買力の他地域への流出」が9社で17%、さらに「消費者ニーズの変化」6社で11.3%、「販売単価の低下、上昇難」4社で7.5%となっている。

次に「一位～三位」を見ると、「購買力の他地域への流出」が31社で過半数を超えて58.5%で最大で、続いて「大型店・中型店の進出による競争の激化」が27社で半数、「消費者ニーズの変化」が24社で45.3%、「需要の停滞」19社で35.8%、「販売単価の低下、上昇難」16社で30.2%である。

山梨県 小売業

経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



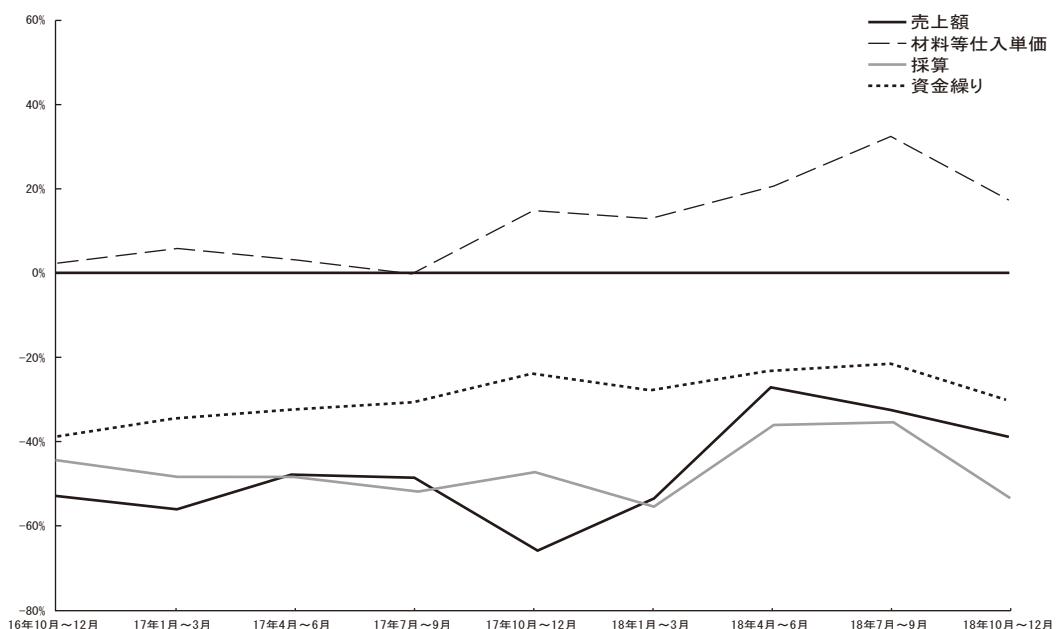
## 5. サービス業の動向

### 1. 景況概観

サービス業における売上額DIは、下図のように2年間余で見ると前々期がピークで、前期より下降線を辿ってしまった。今期DIは、前期より7.2ポイント下落しマイナス38.9であった。

「材料等仕入単価」は、前期より半分近くに低下してきており17.5であった。「資金繰り」については、9ポイント悪化のマイナス30であった。「材料等仕入単価」が低下したとは言え、サービス業において材料等比率は極めて少ないと想われる所以、他の3つの項目に影響を及ぼすことはあまりなく、収益環境は依然として厳しいようだ。

山梨県 サービス業 DI 主要景況項目の推移－前年同期比－



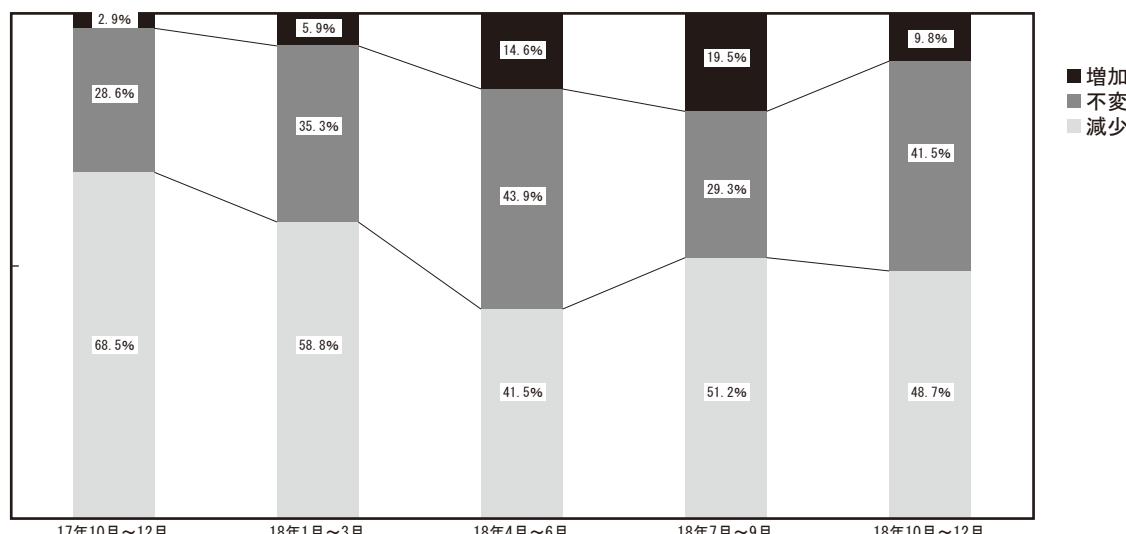
### 2. 主な項目で見る業況

#### (1) 売上額

売上額の詳細を見ると、「増加」が前期と比べると半数に減り9.8%、「減少」が2.5ポイント減り48.7%でDIはマイナス38.9、「不变」は12.2ポイント増え41.5%であった。

山梨県 サービス業

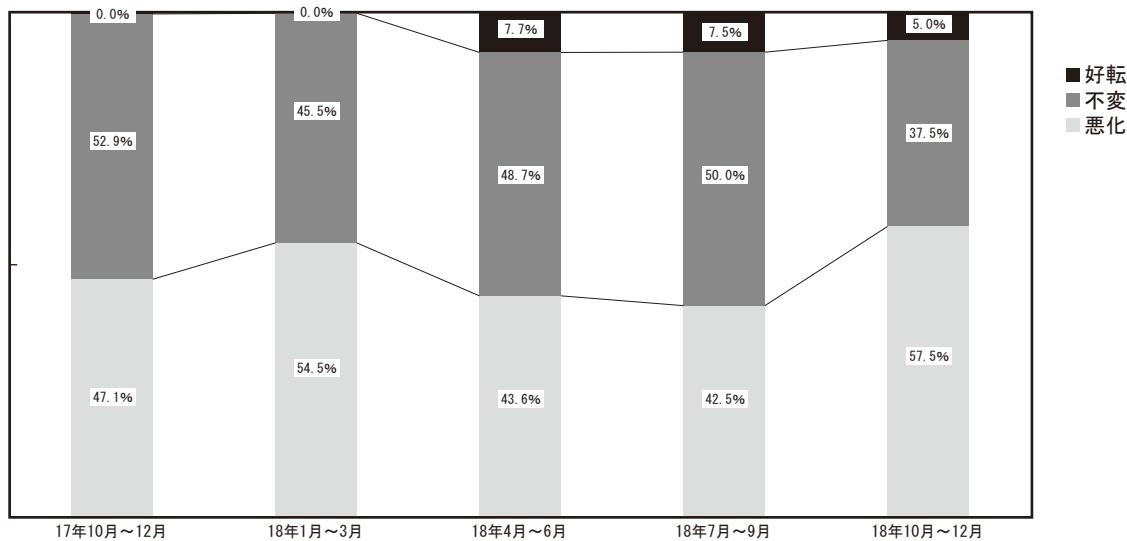
売上額の状況－前年同期比－



## (2) 採 算

「好転」が2.5ポイント減少し5%、「悪化」が15ポイント増加し57.5%で、採算D Iはマイナス52.5である。  
「不变」は50%から12.5ポイント減り37.5%になった。3期ぶりにマイナス50を突破してしまった。

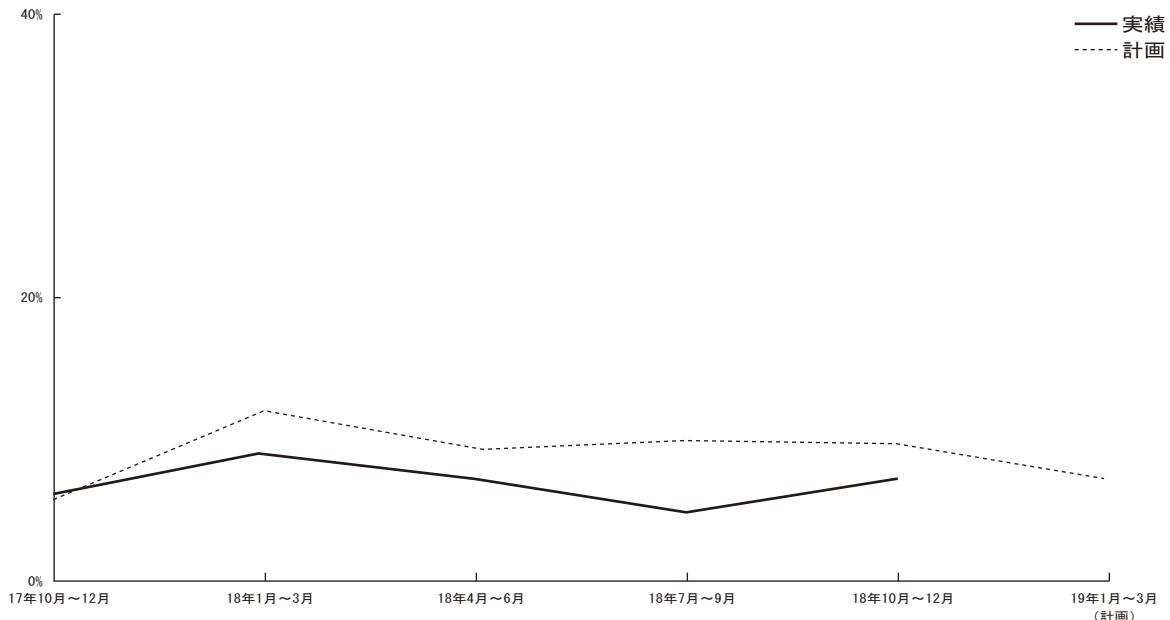
山梨県 サービス業 採算の状況－前年同期比－



## (3) 設備投資

当期のサービス業における設備投資の実績は3企業が実施した。前期より1社増えた。その内訳は「車両・運搬具」1件、「その他」2件である。来期の計画を見ると、同じく3企業で「付帯施設」2件、「サービス」「OA機器」「その他」1件ずつとなっている。

山梨県 サービス業 設備投資の状況



#### (4) 経営上の問題点

サービス業の経営上の問題点をまず「一位」に挙げたものから見ていくと、「需要の停滞」が最も多く12社が答え30.8%、続いて「新規参入業者の増加」が7社で17.9%、さらに「大企業の進出による競争の激化」と「利用者ニーズの変化」がそれぞれ4社で10.3%であった。

次に「一位～三位」に挙げたものを集計すると、「利用者ニーズの変化」と「需要の停滞」が一番多く、それぞれ18社で46.2%、そして「利用料金の低下、上昇難」が16社で41%であった。続いて「新規参入業者の増加」が11社で28.2%、「大企業の進出による競争の激化」が10社で25.6%であった。前期の回答と変化はあまり見られなかった。

ちなみに、サービス業における調査対象は次のとおりであった。

一般飲食店	10	24.4%
遊興飲食店	0	0.0%
旅館、その他の宿泊所	7	17.1%
放送業	0	0.0%
洗濯業、理美容業	17	41.5%
その他のサービス業	7	17.1%

消費者サービス向けの「一般飲食店」や「洗濯業、理美容業」が多く、事業所向けサービス業や新サービス関係の業種・業態が調査対象にあまり含まれていないことに留意してもらいたい。

山梨県 サービス業

経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）

